

令和元年度

姫路市高校生議会 会議録

令和2年（2020年）2月1日

姫路市議会

# 目 次

出席高校生議員	1
欠席高校生議員	1
事務局職員出席者	2
会議に出席した市長、職員及び市議会議員	2
議事日程	3
阿山議長あいさつ	4
出席者紹介	4
高校生議長あいさつ	5
議席の指定	6
会議録署名議員の指名	6
会期の決定	6
一般質問	6
1 尾田萌子議員（兵庫県播磨高等学校）質問	6
「SDGs 実現への取り組み」	
清元市長答弁	7
2 高場いずみ議員（姫路高等学校）質問	8
「禁煙・分煙化を推進するには」	
汐田厚生委員会委員長答弁	9
3 大路愛斗議員（琴丘高等学校）質問	9
「交通マナーの周知について」	
「道路の整備について」	
白井総務委員会委員長答弁	10
妻鹿建設委員会委員長答弁	11
4 石坂珠菜議員（飾磨高等学校）質問	11
「姫路市文化コンベンションセンターの活用について」	
黒川副市長答弁	12
5 久保航貴議員（姫路西高等学校）質問	13
「姫路市の電力事情について」	
「『発電スポット』の設置について」	
三和経済観光委員会委員長答弁	14
6 丸田滝人議員（姫路商業高等学校）質問	15
「地域創生における若者の参加支援事業の創設について」	

高馬副市長答弁	16
7 山根咲良議員（飾磨高等学校）質問	17
「障がいのある方の働く環境の整備」	
松田教育長答弁	18
中西厚生委員会副委員長答弁	18
高校生議長あいさつ	19
市長講評	20
梅木副議長あいさつ	21



## 出席高校生議員（24人）

1番	高場 いずみ	（姫路高等学校）	15番	椎葉 しゅり	（兵庫県播磨高等学校）
2番	谷本 千穂	（姫路高等学校）	16番	堂本 修寿	（姫路西高等学校）
3番	山崎 百々夏	（琴丘高等学校）	17番	久保 航貴	（姫路西高等学校）
4番	正木 幹也	（琴丘高等学校）	18番	桂 咲紀	（飾磨高等学校）
5番	石坂 珠菜	（飾磨高等学校）	19番	前田 彩名	（飾磨高等学校）
7番	高尾 美咲	（飾磨高等学校）	20番	山根 咲良	（飾磨高等学校）
8番	大西 陽輝	（姫路西高等学校）	21番	大路 愛斗	（琴丘高等学校）
9番	梶本 大貴	（姫路西高等学校）	23番	立花 李華	（琴丘高等学校）
10番	岡本 雄也	（姫路商業高等学校）	24番	玉田 彩奈	（姫路高等学校）
12番	丸田 滝人	（姫路商業高等学校）	25番	田中 功樹	（飾磨高等学校）
13番	尾田 萌子	（兵庫県播磨高等学校）	26番	西川 真央	（飾磨高等学校）
14番	灘 朝香	（兵庫県播磨高等学校）	27番	水野 友貴	（姫路西高等学校）

## 欠席高校生議員（3人）

6番	桂 理子	（飾磨高等学校）	22番	上田 悟士	（琴丘高等学校）
11番	鈴木 琉平	（姫路商業高等学校）			

## 事務局職員出席者

事務局 長	樫 本 公 彦	議 事 課 主 事	赤 鹿 裕 之
次 長	上 田 憲 和	議 事 課 主 事	久 内 拓 馬
調 査 課 長	安 積 司		

## 会議に出席した市長、職員及び市議会議員

市 長	清 元 秀 泰	議 長	阿 山 正 人
副 市 長	黒 川 優	副 議 長	梅 木 百 樹
副 市 長	高 馬 豊 勝	議会運営委員会 委 員 長	八 木 隆 次 郎
教 育 長	松 田 克 彦	議会運営委員会 副 委 員 長	酒 上 太 造
		総 務 委 員 会 委 員 長	白 井 義 一
		総 務 委 員 会 副 委 員 長	東 影 昭
		文教・子育て委員会 委 員 長	竹 尾 浩 司
		文教・子育て委員会 副 委 員 長	谷 川 真 由 美
		厚 生 委 員 会 委 員 長	汐 田 浩 二
		厚 生 委 員 会 副 委 員 長	中 西 祥 子
		経済観光委員会 委 員 長	三 和 衛
		経済観光委員会 副 委 員 長	重 田 一 政
		建 設 委 員 会 委 員 長	妻 鹿 幸 二
		建 設 委 員 会 副 委 員 長	駒 田 か す み

## 議 事 日 程

2月1日（土）

午前 10 時 開 会

- 阿山議長あいさつ
- 出席者紹介
- 高校生議長あいさつ
- 開 会

日程第1 議席の指定

日程第2 会議録署名議員の指名

日程第3 会期の決定

日程第4 一般質問

- 閉 会
- 高校生議長あいさつ
- 市長講評
- 梅木副議長あいさつ

## 阿山議長あいさつ

### ○阿山正人議長（登壇）

皆さん、おはようございます。姫路市議会議長の阿山でございます。

姫路市高校生議会の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

姫路市高校生議会は、一昨年、昨年に引き続き3回目の開催となりますが、このたびは市内の6つの高校から24名の皆さんに高校生議員として出席いただきました。勉強やクラブ活動などで大変お忙しい中、本日の開催に向けましてご準備をいただき、誠にありがとうございます。

また、開催に当たりご協力をいただきました清元市長を初め、市当局の皆様、そして関係者の皆様方には、この場をお借りいたしまして厚く御礼を申し上げます。

さて、この高校生議会は、姫路市の未来を担う高校生の皆さんに、模擬議会を通して市政や議会活動に対する関心や理解を深めてもらうとともに、自分たちが暮らす地域の課題や将来のまちづくりについて、自由な発想で質問や提言をしていただき、我々市議会も一緒に考え、学んでいこうとするものであります。

事前に皆さんからいただいた質問項目を拝見しますと、バラエティに富んだ内容であり、皆さんがどのように発言されるのか、非常に楽しみにしております。大勢の前で発言されることは、緊張することと思いますが、しっかりと練り上げてこられた質問をぶつけていただきたいと思います。

しかしながら、皆さんの質問や提言が、必ずしも市政に反映されるかという点、そうはならないかもしれません。ただ、皆さんの声に多くの市民の賛同が得ることができれば、市政を動かすことも可能となります。それが民主主義であります。

今、若い方の政治離れが危惧されていますが、ふるさと姫路を魅力あるまちにするためには、皆さんのような若い力を必要としています。この高校生議会のきっかけとして、市政に関心を持っていただき、市政を動かす原動力として、皆さんのような若い力が活躍してくれることを期待しております。

そういった意味合いからも、本日は、市長、副市長、教育長とともに、普段質問をする立場にある私たち市

議会議員も、皆さんの声に対し誠意をもって答弁をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

最後に、本日の経験が皆さんの将来、そして姫路の未来にとって有意義なものになることを祈念申し上げ、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

---

## 出席者紹介

### ○安積司調査課長

議長、ありがとうございます。次に、答弁を行う側の出席者のご紹介をしたいと思います。

順にご紹介いたしますので、恐れ入りますが、ご起立いただき、簡単に一言ずつお願いいたします。

高校生議員の皆様から見て左側ブロックの席からご紹介いたします。1列目右より、清元市長です。

### ○清元市長

市長の清元です。きょうはよろしくお願いいたします。

### ○安積司調査課長

黒川副市長です。

### ○黒川優副市長

副市長の黒川でございます。きょうは皆さん方、いい答弁ができますよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

### ○安積司調査課長

高馬副市長です。

### ○高馬豊勝副市長

副市長の高馬でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

### ○安積司調査課長

松田教育長です。

### ○松田克彦教育長

教育長の松田です。今日は本当に楽しみにしております。よい議論をしましょう。

### ○安積司調査課長

2列目、先ほどごあいさついたしました、市議会の阿山議長です。

### ○阿山正人議長

皆さん頑張ってください。

### ○安積司調査課長



同じく、市議会 梅木副議長です。

○梅木百樹副議長

おはようございます。きょうは頑張ってください。

○安積司調査課長

議会運営委員会 八木委員長です。

○八木隆次郎議会運営委員会委員長

はつらつとした質問を期待しております。頑張ってください。

○安積司調査課長

同じく、議会運営委員会 酒上副委員長です。

○酒上太造議会運営委員会副委員長

みなさん、おはようございます。きょうは頑張ってください。楽しみにしております。

○安積司調査課長

次に、右側ブロックの席をご紹介します。

総務委員会 白井委員長です。

○白井義一総務委員会委員長

よろしく願いたします。

○安積司調査課長

同じく、総務委員会 東影副委員長です。

○東影昭総務委員会副委員長

おはようございます。頑張ってください。

○安積司調査課長

文教・子育て委員会 竹尾委員長です。

○竹尾浩司文教・子育て委員会委員長

おはようございます。皆さん、頑張ってください。

○安積司調査課長

同じく、文教・子育て委員会 谷川副委員長です。

○谷川真由美文教・子育て委員会副委員長

谷川です。どうぞよろしく願いたします。

○安積司調査課長

2列目に移りまして、厚生委員会 汐田委員長です。

○汐田浩二厚生委員会委員長

おはようございます。ともに頑張りましょう。

○安積司調査課長

同じく、厚生委員会 中西副委員長です。

○中西祥子厚生委員会副委員長

おはようございます。よろしく願いたします。

○安積司調査課長

経済観光委員会 三和委員長です。

○三和衛経済観光委員会委員長

おはようございます。きょうはよろしく願いたします。

○安積司調査課長

同じく、経済観光委員会 重田副委員長です。

○重田一政経済観光委員会副委員長

おはようございます。よろしく願いたします。

○安積司調査課長

次、3列目に移りまして、建設委員会 妻鹿委員長です。

○妻鹿幸二建設委員会委員長

きょうはよろしく願いたします。

○安積司調査課長

同じく、建設委員会 駒田副委員長です。

○駒田かすみ建設委員会副委員長

きょうは頑張ってください。

○安積司調査課長

それでは、高校生議会の議長に今後の進行をお願いいたします。高校生議長は、あらかじめ選出していただいております。飾磨高等学校、田中功樹さん、議長席へ移動をお願いいたします。

---

### 高校生議長あいさつ

○田中功樹議長

おはようございます。

開会に先立ちまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日ここに、令和元年度姫路市高校生議会が招集されましたところ、高校生議員の皆様、そして市議会議長様、副議長様、議会運営委員会の委員長様、副委員長様、各常任委員会の委員長様、副委員長様、並びに清元市長を初め、市の幹部の皆様には、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、市内の高等学校のうち6校から24人の高校生議員が参加し、各グループの代表7人が姫路市の施策に対する質問を行う予定となっております。

答弁者の皆様におかれましては、高校生議員が各グループで真剣に議論し、考えた質問や提案であることをご理解の上、真摯にご答弁いただきますようよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会のご

あいさつとします。

(「異議なし」の声あり)

---

### △午前 9 時 53 分開会

#### ○田中功樹議長

ただいまから、令和元年度姫路市高校生議会を開会します。

これより本日の会議を開きます。

飾磨高等学校 桂 理子議員

姫路商業高等学校 鈴木琉平議員

琴丘高等学校 上田悟士議員から欠席の届出がありましたので、ご報告します。

これより日程に入ります。

本日の日程は、お手元に配付しております議事日程に記載のとおりであります。

---

#### 日程第 1

##### 議席の指定

#### ○田中功樹議長

まず日程第 1、議席の指定を行います。

議席は議長において、ただいまご着席のとおり指定します。

---

#### 日程第 2

##### 会議録署名議員の指名

#### ○田中功樹議長

次に日程第 2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、

姫路高等学校 玉田 彩奈 議員

姫路西高等学校 大西 陽輝 議員

兵庫県播磨高等学校 灘 朝香 議員

を指名します。

---

#### 日程第 3

##### 会期の決定

#### ○田中功樹議長

次に日程第 3、会期の決定を議題とします。

お諮りします。

今回の高校生議会の会期は、本日 1 日間としたいと思います。

これにご異議ございませんか。

#### ○田中功樹議長

ご異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

---

#### 日程第 4

##### 一般質問

#### ○田中功樹議長

次に日程第 4、一般質問を行います。

発言の通告に基づき、指名します。

登壇の上、ご発言願います。

兵庫県播磨高等学校 尾田 萌子 議員

椎葉しゅり 議員

灘 朝香 議員

以上、3 人の高校生議員を代表しまして、13 番 尾田萌子議員。

#### ○尾田萌子議員（登壇）

兵庫県播磨高等学校 1 年 尾田萌子です。

私から、1 つ質問させていただきます。

姫路市において、SDGs（持続可能な開発目標）の実現のため、学校と市とが連携し、主体的に取り組めるプログラムの開発、ワークショップの開催などを検討してはどうかということについて質問させていただきます。

SDGsとは、Sustainable Development Goalsの略で、2015年9月にニューヨークで開催された国連持続可能な開発サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載されている 2016 年から 2030 年までの国際目標です。

また、SDGsは持続可能な世界を実現するための 17 の目標と 169 のターゲットから構成され、地球上のだれ 1 人として取り残さないことが誓われています。格差の問題、持続可能な消費や生産、気候変動対策など、先進国がみずからの国内で取り組まなければならない課題を含む、すべての国に適用されているユニバーサルな課題となっており、世界は同じ方向を向いて動き出しています。実際、国内でも多くの企業、団体がSDGsを掲げ、その実現に向けた取り組みを目に

しています。

今やグローバル社会と言われ、世界の中の日本としても、今後も日本の地位を確かなものにするためにも、SDGsへの取り組みをどの国よりも早く、強く推し進める必要があると思います。そのためにもまず私たちから取り組めることをやっていかなければなりません。

私たちの高校でも、来年度からSDGsをテーマにした授業を、隔週の土曜日に行っていきます。2年間で17すべてのテーマに触れる予定となっています。そこでは、具体的な解決策を見つけるのではなく、全員がSDGsの意義を考え、自分たちができることを話し合う中で、主体的な取り組みを見出していく、というものです。また、3～4時間目では校外から公共政策、アート、デザインなどさまざまな分野で活躍されている外部講師をお招きして講義をしていただきます。土曜日のこれらの授業、講義と通じてSDGsについての意識をより高めるとともに、疑問を持ち、自分の意志を伝え、考えをまとめる力をつけていきます。今から興味を示し、その授業を楽しみにしている友達も多くなります。

しかし、高校生・中学生の中には高い意欲があっても、学校の中でどのように取り組み、何をどのように考えたらいいかかわからない人も多くいると思います。

たとえば、SDGsを理解するために、カードゲームがあります。これは、与えられたお金と時間を使ってプロジェクトを活動していく、というものです。SDGsを楽しみながらゲーム感覚で理解するツールです。ただ、カードゲームを実施するためには資格が必要となり、どの高等学校・中学校でも簡単に行う、というわけにはいきません。そこで、資格を持った方を紹介、派遣していただくシステムがあればだれでもカードゲームを体験し、SDGsの理解が進むのではないのでしょうか。また、講演会を主催していただき、SDGsに関する講義を聞く機会を設ける、ということも考えられます。これらは1つの案にすぎませんが、このようなプログラム、ワークショップなどの支援を姫路市にさせていただきますと、高校生・中学生が参加を考え、SDGsへの取り組みが加速するのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

#### ○田中功樹議長

これより答弁を求めます。

清元市長。

#### ○清元市長（登壇）

兵庫県播磨高校で、他者への思いやりを大切に、日本だけでなく世界にも目を向け、日々勉強されている尾田萌子議員のご質問、SDGs実現への取り組みについて、私からお答えいたします。

SDGsは、先進国、開発途上国を問わず、世界全体の経済、社会及び環境の三側面における持続可能な開発を推進するもので、貧困、健康、教育、ジェンダー、エネルギー、産業、まちづくりなどの17のゴールによって示される多様な目標を追求することは、本市においても諸課題を解決し、地域振興、引いては地方創生を推進するものと考えております。

このため、現在新たに策定している本市の地域づくりの最上位計画である姫路市総合計画や、人口減少とこれに伴う地域経済の縮小を克服し、地域の活力維持を目指すひめじ創生の施策についても、これらの理念を反映すべく取り組んでいるところであります。

また、本市におきましては、高校生等を対象とした取り組みとして、多数の若者が姫路のまちへの思いや姫路の将来像について語り合い、まちづくりへの意識醸成を行うグループワーク形式のタウンミーティング「ひめじ創生カフェ」を開催しています。あわせて、本市の魅力情報を発信するため、動画やパンフレットを活用した出前講座等を実施しています。

今後は、SDGsの浸透を図るため、これらの取り組みにおいて、SDGsの観点を取り入れたテーマの設定や、尾田議員ご提案の講演会やカードゲームの体験など、学校等でのSDGsを学ぶ機会への協力について検討してまいります。このようにして、高校生を初めとする多くの若者が、SDGsを学ぶ機会をつくり、その理念や趣旨を理解し、支持する若者がふえ、社会におけるSDGsへの取り組みが加速するよう努めてまいります。

以上でございます。

#### ○田中功樹議長

以上で、兵庫県播磨高等学校 尾田萌子議員の質問を終了します。

姫路高等学校 高場いずみ 議員

谷本 千穂 議員

玉田 彩奈 議員

以上、3人の高校生議員を代表しまして、1番 高場いずみ議員。

#### ○高場いずみ議員（登壇）

姫路高等学校1年 高場いずみです。

私からは、禁煙化・分煙化を推進するにはについて2つ提案させていただきます。

私たちがこのことについて提案させていただききっかけとなったのは、通学時に喫煙者の副流煙を吸ってしまうのが嫌だなと感じたからです。副流煙には主流煙よりも多くの有害物質が含まれており、健康被害を増大させてしまいます。また、道路上にポイ捨てされた吸い殻を見かけることも少なからずあります。そのような健康被害を減らし、町を美しくするためにはと思い、立案しました。

禁煙化・分煙化の国の取り組みとしては、ことし4月から施行される健康増進法の改正があります。これに伴い、第一種施設（学校・病院・行政機関など）以外の第二種施設（多くの人々が利用する施設）でも禁煙化が徹底され、喫煙ルールが変更されます。

兵庫県の取り組みとしては、ことし4月から施行される受動喫煙防止条例の改正があります。姫路市では、既に平成20年に改正した市の条例により、現在路上喫煙禁止区域に指定している姫路城周辺・大手前通り・姫路駅北駅前広場周辺では、違反者に千円の過料を科すなどの取り組みが行われています。また、県条例の改正を受け、路上喫煙禁止区域やその周辺に市が設定している8カ所の喫煙所のうち、7カ所を撤去することになっています。

確かに、喫煙所が減らされていくことは、私たち受動喫煙をする側にとっては歓迎すべきことです。また、JTの調査によれば、喫煙者率も減少の一途をたどり、2018年では男性28%、女性9%となっています。JTはこの要因を、健康志向の高まりや値上げ、喫煙規制の強化などと分析しています。そこで、私たちは愛煙家の〇先生にインタビューをしてみました。先生は、「自分は人に迷惑をかけてまで吸おうとは思わない。しかし、たばこをやめる気はないので、喫煙所をネッ

トで探して吸っている」とのお話でした。世の中の流れは禁煙化の方向に大きく動き、喫煙者率は減っても、〇先生のように根強い愛煙家は一定数おられ、決してゼロにならないと予想します。

次に、私たちは、現状をこの目で見ようと実態調査をしました。夕方の18時から18時30分の時間帯に、姫路駅北駅前広場、白銀交差点前の喫煙所、利用客数が市内で3番目と5番目に多いJR網干駅、山電飾磨駅を調査しました。喫煙所の利用者数は、北駅前広場では30分間で約80名、白銀交差点前では約30名でした。また、JR・山電とも駅構内は禁煙ですが、網干駅では2名が、飾磨駅では通行人220名のうち1人が歩きタバコをしていました。駅員さんにも聞き取りをしました。網干駅では「煙が上がってきて臭い。吸い殻が捨ててある」、飾磨駅では「喫煙者に注意はできるが、強くは言えない。」とお話でした。さらに、網干駅周辺には吸い殻が約30本も落ちていました。この調査から、ほとんどの人々が良心的にルールやマナーを守っている一方で、残念ながらごく一部の人が守っていないことが確認できました。ではどうすれば、こういう実態を改善でき、喫煙者とそうでない人が、互いに気持ちよく共存できる社会が築けるのでしょうか。

そこで私たちは、2つの提案を考えました。まず1つ目は、徹底した分煙化です。つまり公的空間にも必要最低限は喫煙所を設置する、もしくは残すということです。その際、喫煙所は県条例に沿うように壁などで明確に区切ります。さらに、その設置費用ですが、JTや外資系たばこメーカーなどの企業に一部負担してもらってはどうか。そのかわりにそこに企業の広告掲載を許可します。現在、煙を出さず臭いも気にならない加熱式たばこの普及が急速に進んでいます。このやり方だとその宣伝もでき、企業側にもメリットになるはずです。また、その際は、同じ課題を抱える自治体同士の連携も大事だと思います。市の喫煙所撤去の方向性に逆行するかもしれませんが、徹底した分煙化により、「あそこなら吸えますよ」とルールに不案内な外国人観光客などにも注意しやすくなります。

2つ目の提案は、啓発活動の推進です。禁煙・分煙化の徹底をより広く認知してもらうために、地元のテレ

ビ局やラジオ局、映画館などに協力を依頼してはどうでしょうか。この点についてFM GENKIにお話を聞いたところ、「告知を流すことは、有料でならできる。無料で出演できるコーナーもあるので、それをうまく活用する方法もある。」とのことでした。できれば、企業のCSR（社会的貢献）の一環として、啓発番組を無料で放送・上映をしてもらえるよう交渉はできないでしょうか。

私からの質問は以上です。

#### ○田中功樹議長

これより答弁を求めます。

汐田厚生委員会 委員長。

#### ○汐田浩二厚生委員会委員長（登壇）

高場いずみ議員ご質問の「禁煙・分煙化を推進するには」についてお答えいたします。

まず、1点目の分煙化の徹底のため、最小限の喫煙所は設置し、そこに企業の広告を許可するかわりに、設置費用の一部負担を求めたらどうかというご提案ですが、喫煙所の設置につきましては、健康増進法や県条例におきましても設置が一定認められておりますが、受動喫煙防止の点から、人が多く利用される場所におきましては、喫煙専用室やコンテナ型などの外部に煙がもれない構造が必要となります。

また、企業の広告については、一般企業におきましても、最近の企業姿勢といたしまして、喫煙者の不採用、勤務中の喫煙禁止を掲げておられる企業がふえていることから、喫煙をマイナスイメージと考えられる傾向がございます。

また、加熱式たばこのお話もありましたが、加熱式たばこにつきましても、健康への影響が確認されており、健康増進法では制限の対象外となっておりますが、県条例におきましては、紙巻たばこと同じ取り扱いとなっていることから、本市においても紙巻きたばこと同様に制限の対象として取り扱うべきと考えております。

たばこ会社による喫煙所の設置費用の負担につきましては、他都市におきましてもJTから、パーテーション型の寄附は行っておりますが、コンテナ型での寄附は行っていないとのことであり、以上のことより喫煙所の設置には難しい面があると考えます。

次に、2点目の啓発活動推進のため、地元のテレビやラジオ局などにCSRの一環として協力依頼してはどうかというご提案ですが、受動喫煙防止の啓発につきましては、経済情報誌や商工会議所報等を活用し、健康増進法、県条例の改正に関する記事を掲載させていただきました。また、12月にはFM GENKIにも職員が出演し、受動喫煙の防止に関する啓発を行いました。

本市としましても、受動喫煙防止や禁煙啓発の重要性は十分に認識しておりまして、提案されました企業CSRという視点からのアプローチを含めまして、今後もさまざまな媒体を利用いたしまして、普及啓発に努めてまいりたいと考えています。

また、啓発活動に加え、本市といたしまして今後も市民の健康増進や健康寿命の延伸のために、受動喫煙防止のための活動を進めていくとともに、禁煙支援にも力を入れていきたいと考えております。

最後に、未来ある高校生の皆様におかれましては、喫煙に関して正しい知識を持たれるとともに、健康のためには喫煙をされることのない人生を送られることを願っております。

以上でございます。

#### ○田中功樹議長

以上で、姫路高等学校 高場いずみ議員の質問を終了します。

琴丘高等学校 立花 李華 議員

上田 悟士 議員

大路 愛斗 議員

山崎百々夏 議員

正木 幹也 議員

以上、5人の高校生議員を代表しまして、21番 大路愛斗議員。

#### ○大路愛斗議員（登壇）

琴丘高校1年の大路愛斗です。

私からは2点質問させていただきます。

まず、1つ目は交通マナーの周知についてです。

交通マナーを周知し、徹底してもらうにはどのようにすればよいかという点について質問させていただきます。

私たち高校生は、通学時に自転車を使用する人が多

数を占めています。近年は、自転車と自動車の間だけでなく、自転車と歩行者の間における事故も多発しており、2016年には24件と過去最高件数を記録しました。また、あおり運転も社会問題となっています。そこで、改めて交通マナーを周知し、事故が減り、快適な移動ができるようにする方法を考えることが大切であると考えています。

さらに、全体的な交通マナーのことになる、パトカーや白バイが一般道にいるとき、普段は一時停止をしない車がきちんと一時停止をしたり、自転車も警察がいる近くを通るときは安全運転を心がける人が多いです。このことから、警察の巡回量をふやすことについて提案します。警察がいない通常時にマナーを守らない人のことを考えると、警察の巡回量をふやすことによって、一人一人に意識してマナーを守らせることができるようにすることによって、事故等を減少させることができると考えます。

また、近年小中学生がよく夏休みの宿題等にかく交通ポスターは、地元だけでなく全国的な話題となることも多く、自転車や自動車を利用している人に交通マナーについて再認識させる結果につながっています。交通安全に対する小、中学校の取り組みをさらに拡大し、ポスターを初めとした取り組みを通じてさらに周知を図ることによって、より大きな効果が期待できると予想します。

以上の理由から、市民に交通マナーを守ってもらうために、交通問題への小、中学校の取り組みを拡大し、ポスター制作をはじめとした交通マナーの徹底を周知するために必要な取り組みをふやすよう依頼し、市民に警察の目がより多く届くように、警察の巡回量をふやすことが効果的であると考えますが、いかがでしょうか。

2つ目は道の整備について質問させていただきます。

先ほどにも申し上げましたが、自転車と歩行者の交通事故数が急増しています。自転車の乗り方の傾向について調査すると、高齢者は道の真ん中を走り、若者は並走するという傾向にあります。さらに他の問題として、細い道の歩道に電柱があり、車が来たときに通れなくなることや、街灯が少なく道が照らされていないため、自動車から歩行者が見えにくくなっていて、

ぶつかりそうになることがあるということが多く見られます。

自転車の問題は市の自転車利用環境整備計画により、解決に向かうと考えております。しかし、細い道や街灯が少ない道での事故は避けることが難しいと考えられます。道路の整備を進めることは多くの事故を抑制することにつながります。ほかにも、町が明るいということで、交通安全だけでなく犯罪も減少させることができます。

そこで、歩道の拡張と電柱の場所の見直し、街灯の設置件数の増加を検討するべきであると思っておりますがいかがですか。

私からの質問は以上です。

#### ○田中功樹議長

これより答弁を求めます。

白井総務委員会 委員長。

#### ○白井義一総務委員会委員長（登壇）

私からは、大路議員のご質問のうち、交通マナーの周知についてお答えいたします。

市内の交通事故発生状況は、年々減少傾向にありますが、その中でも課題は、自転車や高齢者の事故であり、本市では、警察や交通安全協会等の関係機関と連携しながら、自転車の安全な利用や交通ルールの遵守などの交通安全教育や、交通安全運動期間中の啓発キャンペーンなど、交通事故防止に向けた啓発事業を展開しております。

また、四季の交通安全運動期間中に、小中学校も含め市内各所に本市が作成しました啓発ポスターを掲示しておりますが、ご提案のありました第1点目の小中学校への交通安全ポスターの依頼等につきましては、交通安全協会が作品を小中学校にも依頼し募集しており、多数の児童・生徒の皆さんから作品の応募をいただいております。

応募作品のうち、優秀な作品を姫路市安全安心市民大会で展示するほか、入賞作品の一部は、運転免許試験場等でも展示するなど、市民や県民の交通安全啓発に取り組んでおります。

引き続き、学校も含め連携を図りながら、同ポスターを活用した交通安全啓発を行ってまいります。

次に、第2点目の警察の巡回量をふやすことに関し

まして、警察官は市民の安全安心のため、日夜多くの業務をこなされている中で巡回されておられます。今回のご提案は、高校生の期待が込められた意見として市内の警察署にお伝えしておきます。

最後に、全国では、自転車利用者が加害者となり、高額な賠償が求められる事故も発生していますが、高校生の皆さんには、加害者にも被害者にもならないよう、リーダーシップを発揮して、ご家族も含めて自転車マナーの向上に取り組んでいただき、小中学生のお手本となるように期待しております。

以上でございます。

#### ○田中功樹議長

妻鹿建設委員会 委員長。

#### ○妻鹿幸二建設委員会委員長（登壇）

大路議員のご質問中、私からは道路整備についてお答えいたします。

道路整備に関して、交通安全と犯罪防止の観点から、日常的に自転車を使用されている高校生の方ならではのご提案、誠にありがとうございます。

今回いただいた、歩道の拡張と電柱の場所の見直し、街灯の設置件数の増加の3つのご提案について、姫路市が実際に行う場合の現状の方法を踏まえ、市としての見解をご説明いたします。

まず、歩道の拡張についてですが、沿道の土地所有者から歩道用の土地を提供していただく方法、現状の道路幅のまま車道幅を狭めて歩道を広げる方法、道路と水路が並行している場合には、水路に蓋をかけて歩道にするといった方法があります。隣接する方々や、地元自治会の方々に、その必要性について説明を行い、同意をいただいた上で実施することになります。

続いて、電柱の場所の見直しについてですが、道路敷地外に余地がない場合に限り、道路上に電柱を建てることを許可しております。これが交通の支障になっていると考えられる場合は、電柱の建てかえ時において、隣接する方々に説明を行い、同意をいただいた上で、電柱などの占有者の協力を得ながら場所の見直しを行っております。

最後に、街灯の設置件数の増加についてですが、街灯には交通安全上設置している道路照明灯と防犯上設置している防犯灯があります。道路照明灯は、姫路市

が道路事業として公道と公道の交差点及び公道の屈曲部など、見通しの悪い箇所に設置しております。また、防犯灯は地元自治会が姫路市からの助成制度を利用して電柱などに設置しております。

現在、道路照明灯は約7,600基設置しており、防犯灯は約49,000灯設置されております。

いずれにいたしましても、市道の改良において、交通の安全確保や、犯罪の防止は非常に重要な観点であると認識しており、今後とも、地元自治会を初め、周辺住民の皆様と連携を図りながら、安全・安心なまちづくりを推進してまいります。

今回いただいたご提案は、道路利用者の貴重なご意見として、今後の道路整備に役立ててまいりたいと思っております。

以上でございます。

#### ○田中功樹議長

以上で、琴丘高等学校 大路愛斗議員の質問を終了します。

飾磨高等学校 桂 理子 議員

石坂 珠菜 議員

高尾 美咲 議員

以上、3人の高校生議員を代表しまして、5番 石坂珠菜議員。

#### ○石坂珠菜議員（登壇）

失礼いたします。飾磨高等学校2年の石坂、桂、高尾です。

私たちは、2021年度に開館が予定されております姫路市文化コンベンションセンターについて質問及び意見させていただきたいと思っております。

姫路市文化コンベンションセンターは3つのホールを初めとする充実した設備を兼ね備えており、大ホールは2,000席と既存の姫路市文化センターの大ホール1,657席と比べ、非常に多くの方々に利用できるようになることを伺っています。

そこで私たちは、この新しくできる姫路市文化コンベンションセンターを活用して、若者が姫路に集まるまちづくりを提案いたします。

まず、「若者が姫路に集まる」とはどういうことかを私たちが話し合いました。私たちが普段遊びに行くと、友人たちと決める時、神戸や大阪になること

が多いのに対して、姫路で遊ぶ機会が少ないことに気づきました。確かに、姫路駅周辺にはピオレやテラッソなどの商業施設が充実し、姫路駅も大規模整備されたためか、私たちが町を歩いていてもこれまでより活気に溢れているように感じます。

一方で、姫路市の人口データにおける、2006年の合併前と2015年の昼間人口に注目しました。これを見ると、姫路市に通勤・通学している人数が2007年には約7万人いたにもかかわらず、2015年には約6万人までに減少しています。また、姫路市からほかへ通勤・通学している人数は2007年には約5万人でしたが、2015年には約6万人へと増加しています。

私たちは以上のデータからも、姫路市がさらなる魅力あるまちづくりに取り組む必要があることを感じました。

本題に戻ると、私たちは姫路市文化コンベンションセンターを音楽アーティストのライブ会場として活用できないかと考えています。そこでまずは、新しくできる姫路市文化コンベンションセンターには、ライブ会場として定期的に運用するような計画があるかどうかをお尋ねしたいです。

次に、なぜ姫路で音楽アーティストのライブを行うことで、若者が集まるまちづくりにつながるかについて説明していきたいと思います。そもそも、この近辺で有名アーティストがライブを行う場所となると、どうしても大阪方面が多くなります。姫路周辺では、なかなかライブが行われる機会も少なく、また、音楽以外にも若者が遊ぶ場所が少ないように思えます。

あったとしても、移動に自動車を利用する必要もあることも、若者が姫路を遊びの場として選んでいない要因の1つに挙げられると思います。

また、姫路市は人口約53万を有する中核市ですが、全国で姫路と似た都市と比較してみようと考えました。まずは石川県金沢市です。姫路との共通点は、新幹線の駅がともにあることです。金沢には本多の森ホールという施設があり、席数は1,707席あるとのこと。過去には紅白でも話題になった、あいみょんさんもここでライブを行っていました。

次に、愛媛県松山市。人口は約50万人です。松山市には松山市民会館があり、この会館のホールは1,999

席あります。このことから、松山市と姫路市は人口や会場規模からも非常によく似た状況だと思いました。また、アーティストもリトルグリーモンスターさんやゆずさんがここでライブをしています。

最後に、岡山県倉敷市です。倉敷市の人口は47万人。ここには倉敷市民会館があります。席数は1979席で、ナオトインティライミさんやaikoさんがここでライブをされたとのことでした。

以上から、姫路と似たような条件の人口、設備を兼ね備えた町を見ると、あたらしくできる文化コンベンションセンターはライブを行うのにとってつけの場所だと思います。

ただ、全国的に見ると、席数が2,000というのは少ない数字だと思います。私たちは、これらの条件を踏まえて、さらに以下の提案を行うことでまちづくりを活性化させていきたいと思います。

まず、ライブを行ってもらうアーティストは、これからの伸びしろが期待されるアーティストを中心に行います。可能であれば、音楽フェスティバルのようなものでもいいかと思っています。

次に、運営スタッフについてですが、これは姫路周辺の大学生や専門学校生に参加する場を提供します。若者はライブに興味がある人が多いので、地元でライブが開催されるとすれば、姫路だけでなく、周辺都市からも人が集まるようになると考えました。

以上から、私たちは姫路駅から非常にアクセスのいい姫路市文化コンベンションセンターをライブの会場の場として定期的に活用できないかどうかを質問し、また提案させていただきます。私たちの案がもし実現すれば、さらに姫路が若者を中心に活躍する町になると考えております。発言は以上です。

#### ○田中功樹議長

これより答弁を求めます。

黒川副市長。

#### ○黒川優副市長（登壇）

石坂議員ご質問中、私からは、姫路文化コンベンションセンターの活用について、お答えを申し上げます。

2021年（令和3年）9月にオープン予定の姫路市文化コンベンションセンターでは、「新たな出会い、発見、価値を創出し、姫路の魅力向上と都市の活力を生み出



す交流拠点」という管理運営理念のもと、「まちに賑わいと感動を創出」、「文化芸術による市民文化の振興と都市魅力の創造・発信」など、5つの基本方針を掲げ、この基本方針に沿って運営をしてみたいと考えております。

ご提案の、音楽アーティストのライブ会場として本センターを定期的に活用することは、まちにぎわいを創出するための有効な方法の1つであると認識をいたしております。

そのため、本センターは、コンサートなどのイベントの運営や誘致ノウハウにたけた民間事業者に指定管理者として管理運営をお願いをいたしており、現在、若者向けのポップスコンサートを初めとした各種イベントの誘致活動に取り組んでおるところでございます。若者に限らず、市民の皆様が、本センターに親しみを持ち、本センターを積極的に使っていただく、そのことが、市民主体のまちづくりにつながっていくものと考えております。

また、姫路周辺の大学生などを運営スタッフとしたコンサートの定期的な開催につきましても、指定管理者とともに検討をしてみたいと考えております。

さらに、オープンの機運を盛り上げ、本センターの魅力や知名度を向上させるため、開館前後の期間をオープニングシリーズとして位置づけをいたしております。このオープニングシリーズでは、指定管理者を初め、本市の外郭団体である姫路市文化国際交流財団や各種文化芸術団体の皆様と連携・協力しながら、ポップス、クラシック、演劇など、これまで姫路では体感できなかった多彩な事業を重点的に展開し、文化芸術の振興や中心市街地の活性化を通じて姫路の魅力を広く発信をしてみたいと考えております。

以上でございます。

#### ○田中功樹議長

以上で、飾磨高等学校 石坂珠菜議員の質問を終了します。

姫路西高等学校	大西 陽輝	議員
	梶本 大貴	議員
	久保 航貴	議員
	堂本 修寿	議員
	水野 友貴	議員

以上、5人の高校生議員を代表しまして、17番 久保航貴議員。

#### ○久保航貴議員（登壇）

兵庫県立姫路西高等学校1年、久保航貴です。

私からは、2つ質問させていただきます。

私たちはより豊かな社会を目指すために、エネルギー問題について課題研究をしています。なぜエネルギーに注目したかという、私たちは、現代社会にはエネルギーが不可欠であると考えているからです。しかし、今の社会にはたくさんのエネルギー問題があると言われております。例えば、現在の日本のエネルギー供給を支えている火力発電では、発電過程で多量の二酸化炭素や排出ガスが発生し、地球温暖化を進める原因となっていたり、また、災害時などには大規模な停電、深刻な電力不足に陥るという可能性があります。しかし、私たちは普段当たり前のように電気をつけたり、当たり前のようにテレビを見たりなど、エネルギーの恩恵を受けています。このように、エネルギーの問題があるにもかかわらず、エネルギーとともに生活している私たちこそが問題であると私たちは考えました。

そこで、1つ目の質問です。私たちが生活している姫路市での電力事情について教えていただきたいです。

姫路市では温室効果ガスの排出量の抑制のために、具体的にはどのように努めておられるのですか。

また、災害時に起こり得る電力不足に対して、どのような対策を考えていらっしゃるのですか。

次に、私たちが考えている解決策です。

先ほど話したような問題を解決するために、高校生である私たちができることは、人々のエネルギーに対する意識を高めることだと考えます。そこで私たちは、オランダのユトレヒト駅に設置されている、携帯電話を充電することができるブランコに注目しました。このブランコは、ID310という団体によって「Play for Power」という名で設置され、約半年間で数百万人もの人々が利用したそうです。

私たちは、このブランコのように、私たちの身近にあるものをエネルギーと結びつけて利用してもらうことで、エネルギーを身近に感じ、エネルギーに対する興味を持ってもらえると考えました。

そこで、私たちが「発電スポット」というアイデア

を考えました。発電スポットとは、だれでも気軽に立ち寄ることができ、そこに行った人々がエネルギーを身近に体感できる場所です。具体的には、先ほどのブランコのような発電することができる遊具や、さまざまな発電に関する模型を設置することを考えています。また、同じ場所にエネルギー問題に関する展示などを行うことで、人々のエネルギー問題に対する意識が高まり、エネルギー問題を知ったり学んだりすることもできると思います。科学館の体験ブースのような場所をイメージしていただければと思います。

そして、2つ目の質問です。私たちはこの課題研究を発展させるために、実際に発電スポットを設置したいと思っています。私たちは、人が多く集まる場所に設置したいと考えています。具体的には、姫路駅内や姫路駅周辺、姫路城周辺などを考えています。ここに来た人々は、子どもや大人を問わず、エネルギーへの興味がより沸きやすくなると思います。

このような場所をつくることで、人々のエネルギーに対する意識が高まり、姫路市がエネルギー問題を発信する先駆けとなることができると考えますが、いかがでしょうか。

私からの質問は以上です。姫路市の電力事情について、発電スポットの設置について、前向きなご回答をよろしく願います。

#### ○田中功樹議長

これより答弁を求めます。

三和経済観光委員会 委員長。

#### ○三和衛経済観光委員会委員長（登壇）

私からは、久保航貴議員のご質問にお答えいたします。

初めに、姫路市の電力事情についてでございますが、本市の臨海部にはLNG（液化天然ガス）を使用燃料とする関西電力姫路第一発電所（144.2万kW）、姫路第二発電所（411.9万kW）の2つの火力発電所があり、設備容量の合計は原子力発電所約5.5基分相当の556.1万kWとなっております。

このLNG火力発電は、1kWhの発電当たりの温室効果ガス排出量が石炭火力発電の約半分であり、火力発電の中では温室効果ガスの排出量が最も少ない発電方式とされております。

また、大阪ガス株式会社も、関西電力姫路第二発電所の隣地に2026年の運用開始を目指して約180万kWのLNG火力発電所の建設を計画するなど、本市の臨海部は我が国におけるエネルギー供給の重要拠点となっております。

次に、温室効果ガスの排出抑制のために具体的にどのようなことに努めているのかについてであります。本市は、平成30年3月に姫路市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を改定し、市域全体で温室効果ガスを2030年度に、2013年度比で26.1%削減することを掲げ、各種施策に取り組んでおります。

昨年3月には、地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」につきまして、その趣旨に賛同し、市民や事業者と協働して取り組むことを宣言し、啓発リーフレットの作成や啓発イベントを実施し、節電、省エネ家電の選択など身近に取り組める地球温暖化対策を推進しております。

あわせて、一般住宅への太陽光発電システムの設置補助など再生可能エネルギーの普及や電気自動車・燃料電池自動車等エコカーの導入促進など、市域全体で温室効果ガス削減に取り組んでまいりました。

今年度は、燃料電池自動車の普及促進に必要な水素ステーションの整備費用を助成する制度を創設し、環境負荷低減につながると期待されている水素エネルギーの利用促進に取り組んでおります。

今後は、地域の経済性、環境性、レジリエンス性を高めつつ、再生可能エネルギーのさらなる普及を図るため、平時においては温室効果ガス排出を抑制し、災害時においてはエネルギー供給源となる家庭用蓄電池システムの導入の助成を検討しており、これらの取り組みを通じて、引き続き温室効果ガスの排出抑制に努めてまいります。

次に、災害時の電力不足に対してどのような対策を考えているのかにつきましては、近年、全国各地で頻発している災害において、大規模な停電が発生しており、災害時の電力不足については、災害対策を行う上で重要な課題であると認識しております。

本市におきましては、防災拠点など災害対応を行う上で重点となる施設などには自家発電機を設置して、

非常時の電力の確保に努めております。

また、避難所の非常用電源につきましては、コミュニティ防災倉庫や備蓄倉庫等に保管している可搬型発電機で対応することとしております。

広範囲の大規模停電に対しましては、電力会社や協定先の事業者にも可搬型発電機の支援を求めるほか、電力会社に防災拠点や避難所等の電源復旧を重点的に行ってもらうこととしており、中核市災害相互応援協定や播磨広域防災連携協定など、各種応援協定の活用も図ることとしております。

最後に、発電スポットの設置についてでございますが、現在、本市では、あらゆる世代の人々のエネルギーに対する意識や関心を高めるため、親子が実験や体験を通じてエネルギーについて学習する夏休み子ども環境塾の実施や、ひめじ環境フェスティバルにおける自転車発電体験ブースの設置など、人々がエネルギーについて知る機会の提供に取り組んでおります。

今回、議員からご提案いただきました、だれもが気軽に立ち寄ることができ、そこに行った人々がエネルギーを身近に体感できる場所となる発電スポットは、人々のエネルギーに対する意識を高めることができる斬新なアイデアであると考えます。

一方で、遊具の安全確保や保守を含む維持管理方法とその費用、設置に当たって必要となる施設管理者や関係機関との調整といった課題があると認識しております。

よって、発電スポットにつきましては、ご提案の場所へ常時設置することは難しいと考えますが、大手前公園で開催をしておりますひめじ環境フェスティバルにおける活用などを検討してまいります。

以上でございます。

#### ○田中功樹議長

以上で、姫路西高等学校 久保航貴議員の質問を終了します。

姫路商業高等学校 丸田 滝人 議員  
岡本 雄也 議員  
鈴木 琉平 議員

以上、3人の高校生議員を代表しまして、12番 丸田滝人議員。

#### ○丸田滝人議員（登壇）

兵庫県立姫路商業高等学校3年 丸田滝人です。

私からは、質問を1つさせていただきます。

地域創生がこれからのキーワードとなる中、地域創生における若者の参加支援事業を創設してはどうかについて質問させていただきます。

姫路市におきましてもひめじ創生戦略を立て、各アクションプランによりさまざまな事業に取り組んでおられます。姫路駅を中心とした区画では整備も進み、兵庫県西部のターミナル駅として、連続立体交差事業が進められ、2006年に山陽本線、2008年に播但線と姫新線の高架化が実現、自由通路などの駅周辺の整備も進みました。また、駅の北側には、物販・飲食店舗などで構成されたピオレ姫路などの開業もあり、目に見えて活性化に向けた動きが見られます。また、ひめじ創生カフェなど姫路のまちへの思いや姫路の将来について、まちづくりへの意識醸成を行うタウンミーティングも開かれるなど、さまざまな世代で交流できるようになりました。

一方で、中心市街地の商店街には空き店舗も多数存在し、中心市街地内の地域格差も大きく見られます。そのような店舗や土地を活用し、高校生が企画・運営するイベントを行う場所の提供や支援、若者が姫路市内で起業するための店舗を支援する取り組みが必要になってくるのではないかと考えています。

本校においては授業の一環として、五層もなか本舗との開発商品である「城白もなか」や、鎌田商店との開発商品である「ちゅりーふ」を初め、多数の商品開発を行ってきました。それらの商品を定期的に山陽百貨店前で販売していますが、地域住民の方はもちろん、たくさんの人を集めることができおり、売り上げも好調です。また、昨年11月に姫路駅北にぎわい交流広場にて行われた「はりま学生交流会」では、各校の特色を生かした販売や学校紹介、吹奏楽部を初め、複数の団体による演奏を行ったところ、学生だけでなく多数の方が足を止め、参加していただくことができました。このように私たち高校生が販売実習やイベントを行うことは、世代を超えた交流の場ともなり、地域活性の1つになると考えています。その一方、毎日行うことは大変難しく、また、イベントを行う場所を借りるためには費用が必要となり、一時的なものにとどま

っている現状があり、継続的なものにはなっていないと考えます。

また、中心地や商店街で店舗を構える際にも費用が必要となり、起業を考える若者にとっては大変高いハードルになっているのではないかと考えます。若者が都会へ出ずに、姫路市で起業することを支援するシステムがあれば、人口減少や地域経済の活性化などに貢献できるのではないのでしょうか。姫路市まちなか商店街店舗調査報告書におきましても行政に対し、空き店舗の活用や対策を望む要望が41.2%と高いことが示されています。

実際、北海道帯広市では、帯広市中心市街地活性化基本計画が策定され、取り組みの1つとして、帯広市の商店街では活性化支援として地産地消を売りにして屋台事業を行いました。その結果、年間18万人の人出と3億円の売り上げがあり、少ない投資でも開業できる屋台を起業の場として、屋台卒業後も中心街の空き店舗で営業を始める人も出ています。

姫路市において、空き店舗を利用し、高校生のアイデアをもとに地域と連携をしながら運営を行うことができる支援事業があれば魅力的ではないのでしょうか。また、将来的に姫路市内に店舗を持ちたいと思う若者に対して、高校生と同様に、金銭的な支援やサポート事業の創設を検討してはどうかと考えますが、いかがでしょうか。

質問は以上です。

#### ○田中功樹議長

これより答弁を求めます。

高馬副市長。

#### ○高馬豊勝副市長（登壇）

丸田議員のご質問中、私からは、地域創生における若者の参加支援事業の創設についてお答えをいたします。

まず初めに、丸田議員を初め、市内の高校生の皆さんが姫路市の地域創生に関心を持っていていただくことに、大変心強く感じています。中でも起業という形で、姫路の地にとどまり、働くという仕組みづくりは、議員ご指摘のとおり、若者の大都市への流出を食いとめることに効果が期待でき、また、地域経済の活性化にも寄与する取り組みであると考えます。

また、中心市街地商店街における空き店舗の活用のご提案に関しましても、姫路駅周辺地区が播磨地域全体における都会的な魅力のエリアを維持することにつながることから、重要な取り組みであると考えております。

本市においては、姫路市中心市街地活性化基本計画に基づいて、平成22年度からの第1期及び第2期の計画の10年間で、都市の魅力を高めるための基盤整備、いわゆるハード整備を中心に進めてまいりました。

今後、令和2年度から5年間の第3期計画においては、主にソフト事業に力を入れて活性化に取り組むこととしており、中心市街地のさらなるにぎわいの創出に努めてまいりたいと考えております。

また、この第3期計画では、中心市街地商店街、約600店舗の中にある約30カ所の空き店舗を減少させていくことを計画の数値目標として掲げています。

その対策として、姫路商工会議所内にある姫路創業ステーションにおいて、起業に関する各種の相談対応やアドバイスのほか、実際に出店する際の家賃助成、また内装工事費の支援、さらに経営指導なども行っており、多くの方にご利用をいただいております。今後は、丸田議員のご提案にあった高校生のアイデアをもとに地域と連携して運営を行うための支援事業の検討や、若者を初め、自己資金が少ない方でも起業ができる仕組みについて、さらに研究してまいりたいと考えております。

また、高校生の皆さんが企画運営するイベントの場所の提供や支援については、市としても積極的に応援していきたいと考えております。ぜひご相談いただければと思います。

今後、まちの活性化や新たに起業を検討されている若い方々がどのような分野に関心をもち、またどのような支援を求めておられるかなどについて、この高校生議会や播磨地域の高等学校で取り込まれているはりま学生交流会など、さまざまな機会を通じてご意見をお聞きし、効果的な取り組みとなるよう検討してまいります。

以上です。

#### ○田中功樹議長

以上で、姫路商業高等学校 丸田滝人議員の質問を

終了します。

飾磨高等学校 前田 彩名 議員

山根 咲良 議員

桂 咲紀 議員

西川 真央 議員

以上、4人の高校生議員を代表しまして、20番 山根咲良議員。

#### ○山根咲良議員（登壇）

飾磨高校3年山根咲良です。

私からは1つ質問させていただきます。「障がいのある方の働く環境の整備」についてです。

兵庫県の福祉のまちづくり条例の基本方針をホームページで確認しました。そこには、急速な高齢化や障害者の社会進出の進展等に対応し、ユニバーサル社会づくりの視点のもとに、福祉のまちづくりを実現するため、高齢者、障害者、妊婦、乳幼児を初めとするすべての人々が、いつでも生き生きと生活し、能力を発揮して活動できる安全・安心で快適なまちづくりを理念とし、姫路市もノーマライゼーション社会の実現に向け、取り組んでいることがわかりました。

しかし、私たちは実際の社会は安全・安心で快適なまちとは言いがたいと感じています。このように考えたきっかけは、障害を持った友人が就労する中で困難を抱え、苦勞しているという話を聞いたことです。差別的な発言をされたり、障害者のことを理解していない人が指導をし、身体的にも精神的にも苦痛を感じていると聞きました。そこで、私たちは3つのことを提案します。

1つ目は高等部が5年制の市立特別支援学校の設立です。障害を持った友人にインタビューをしたところ、特別支援学校で職業訓練が余りできなかった。また、知識を持った状態で職業訓練をしたかったと聞きました。そのため、私たちは、高等部が本科3年、専攻科2年の特別支援学校が姫路市にあれば、スムーズに社会に参加できるのではないかと考えました。実際に専攻科2年を取り入れている国公立高校に鳥取大学附属特別支援学校があります。「鳥取大学附属特別支援学校専攻科10年の成果」によると、卒業した生徒の約9割が現在の仕事を楽しんでいると答えており、健康状態についても約9割が健康であると答えています。これは、職業

訓練を十分に行うことにより、ストレスや孤立感なくスムーズに仕事ができているということが言えるのではないのでしょうか。このように、本科3年で作業学習などの基礎能力を養い、専攻科で2年職業訓練を含めた学習を行う、高等部が5年制の市立特別支援学校の設立を私たちは提案します。

2つ目は企業に対し、障害者が活動できる環境整備の条例の策定です。私たちはハローワークインターネットサービスを活用し、障害者専用求人を実際に調べてみました。姫路市内では69件の求人があり、そこには特記事項として、車いすの移動が可能かどうかなど記載されていました。69件のうち、21件が障害者用トイレなし、16件が点字なし、38件が車いす不可とありました。車いす不可の理由についてはほとんどが作業内容を理由とありましたが、中にはスペースがないといった理由も見られました。障害者専用求人であるのににもかかわらず、約半数の企業で働く環境が整っていない状況となっています。そこで、企業側に対して、車いすでも活動できるスペースの確保、点字の設置、障害者用トイレの設置などを義務化する条例を姫路市が策定することを提案します。

3つ目は障害者への理解を深めるための一般企業への研修の充実です。どれだけまちづくりを発展させたり、障害者の方が勉強したとしても、受け入れる側の企業の理解がなければ、すべての社員が働きやすい環境はつくれないと考えます。姫路市が主体となって企業への研修を企画、運営を行えば、社員の方の障害者への理解も高まるのではないのでしょうか。実際に官民が密に連携を図っている地域が神奈川県の川崎市です。障害の有無にかかわらずだれもが暮らしやすい地域づくりを目指して、相談支援事業所、サービス事業者、教育の関係者、当事者など地域のさまざまな立場の人たちが集まり話し合う会議として、平成18年度に各区と市に地域自立支援協議会を設置したと、市のホームページで確認しました。地域における障害者等への支援体制に関する課題について情報を共有し、連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制の整備について協議を行うことを目的として、年2〜3回程度会議を開催しているということがわかりました。その結果、「川崎市内の福祉施設利用者の一般就労に関する

実態調査結果」によると、障害者の就労 1 年後の定着率は、過去 3 年間の平均が約 78%と高い数値となっております。このように姫路市も官民が連携し、企業研修を企画・運営することを提案します。

以上の提案を実現させることにより、すべての人々が、いつでも生き生きと生活し、能力を発揮して活動できる安全・安心で快適なまちづくりが可能になると考えます。

私からの質問は以上です。

#### ○田中功樹議長

これより答弁を求めます。

松田教育長。

#### ○松田克彦教育長（登壇）

議員ご質問中、私からは「高等部が 5 年制の市立特別支援学校を設立してはどうか」についてお答えします。

障害の有無にかかわらず、一人一人がその人らしく生き生きと生きる社会の実現を目指して、基礎的環境整備や合理的配慮を充実させ、社会への啓発を進めることは重要であるという議員のご意見は、まさしくそのとおりでございます。

本市には、障害種別が肢体不自由である児童生徒を対象とした市立の書写養護学校が設置されております。高等部の 5 年制の特別支援学校は、全国的に見ましても、聴覚特別支援学校と視覚特別支援学校に設置されている場合が多く、知的障害特別支援学校に専攻科が設置されているところは少なく、肢体不自由特別支援学校に専攻科を設置しているところはございません。

一方、本市では「職業自立センターひめじ」や就労移行支援事業所などにおいて、障害に応じた職業準備訓練を推進しております。一人一人の能力や適性に応じた就労に結びつけられるよう、まずは既存の施設や制度の十分な周知を図り、障害の状況に応じた学びの場として活用していただくことで、障害のある人が技術と自信を持って社会で活躍できるように支援してまいります。

市内の知的障害特別支援学校の高等部専攻科の設置については、今後の課題として、兵庫県教育委員会と協議してまいります。

以上でございます。

#### ○田中功樹議長

中西厚生委員会 副委員長。

#### ○中西祥子厚生委員会副委員長（登壇）

ご質問のうち、私からは、2 つ目及び 3 つ目についてお答えいたします。

まず、2 つ目の質問につきましては、兵庫県が定める福祉のまちづくり条例では、官公署、病院又は物販店舗等の公益的施設における主に不特定多数の者が利用する区域について、重点的にバリアフリー化を進めていくこと及びそれらの整備基準が規定されています。高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）においても、同様に不特定多数の者が利用する区域のバリアフリー化を推進していくこととしています。

現状の福祉のまちづくり条例においては、一定規模以上の大規模な工場や事務所に対して、従業員が利用する区域をバリアフリー化する整備基準があり、従業員に向けたバリアフリー化も推進しておりますが、姫路市独自で、用途・規模にかかわらず、すべての企業に対して、バリアフリー化をすることを義務づける条例を策定するには幾つかの課題があります。

1 つ目は、整備基準及び整備対象範囲についてです。現在、福祉のまちづくり条例で示されている整備基準を準用し、従業員のみが利用する範囲まで整備対象範囲を広げることは不可能ではありません。しかし、各企業の事業内容も、従業員ごとに必要とされる対応も多様多様であることから、一律の基準を設けることが望ましいかどうかについて慎重に検討する必要があります。また、建物規模などから物理的に対応が困難な可能性も考えられることから、その点も検討が必要であると考えます。

2 つ目に整備費用についてです。現在、一定規模以上の企業では、福祉のまちづくり条例の対象となっているため、バリアフリー化による整備費用の負担をお願いしています。さらに、一定規模未満の企業にも義務化を拡大することは、企業経営に与える影響が大きいためと予測されます。

施設整備に関する条例の制定については、このような課題があるため、現状では困難であると考えております。

しかしながら、平成 28 年 4 月に施行された障害者差別解消法において、事業者は、不当な差別的取り扱いの禁止及び合理的配慮の提供について努力義務が課せられており、事業者は、障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合に、その実施に伴う負担が過重でないときは、当該障害者の障害などの状態に応じて、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮をするように努めなければならないとされており、企業には、障害者からの求めに対し、過重な負担とならない範囲で対応に努めることが求められています。現に雇用されている障害者や採用を予定されている障害者への企業の対応については、障害者差別解消法の内容を十分理解していただき、当該障害者の状態に応じた対応を実施することによって働きやすい職場環境の実現に努めていただくよう、障害者差別解消法の周知に努めてまいります。

次に、3 つ目の質問につきましては、姫路市では官民が連携した地域自立支援協議会を設置し、当該協議会には就労に関する専門部会も設け、地域課題の情報共有、関係機関等の連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制の整備について協議しております。直近では、障害者が就労支援を行うに当たっての必要な情報を把握する就労アセスメントに関する研修を事業所向けに実施しております。また、障害者が利用できる障害福祉サービスでは、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う就労移行支援や就労継続支援サービス、企業等との連絡調整を行うとともに、雇用に伴い生ずる問題に関する相談、助言などの支援を行う就労定着支援のサービスがあるほか、姫路市では障害者就業促進・安定化事業を職業自立センターひめじに委託し、障害者の就職及び職場定着の支援を実施しております。当該事業所では、事業主に対し、障害者雇用への助言及び援助を行っており、環境整備への助言や研修会などを実施し、障害者の就労を支援しております。

さらに、姫路市では、先ほどお答えした障害者差別解消法の内容を啓発するチラシを作成し、企業に配布するなど、障害への理解促進を図っております。

本質問は、身近な方の体験から障害者の就労環境における訓練の必要性を感じ取るのみならず、企業側の

理解や環境整備の促進が必要であることにまで目を向ける、幅広い視点によるものであり、本質問を貴重な意見として、今後の障害者施策の参考といたします。

以上でございます。

#### ○田中功樹議長

以上で、飾磨高等学校 山根咲良議員の質問を終了します。

これで、一般質問を終了します。

以上で、本日の日程は終了しました。

お諮りします。

今回の高校生議会の案件はすべて終了しましたので、閉会したいと思います。

これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。

よって、令和元年度姫路市高校生議会は、これで閉会します。

**△午前 11 時 21 分閉会**

---

#### 高校生議長あいさつ

#### ○田中功樹議長

閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日の高校生議会は、皆様にご協力いただいたおかげで、無事閉会することができました。

円滑な議事進行にご協力いただいた高校生議員の皆様、感謝申し上げますとともに、高校生議員の質問に対し、真摯にご答弁くださった市議会議員の皆様、市長を初め、市の幹部の皆様には、心からお礼を申し上げます。簡単ではありますが、閉会のごあいさつとします。

どうもありがとうございました。

---

#### ○安積司調査課長

田中さん、ありがとうございました。それでは、元の席のほうへお戻りいただきたいと思っております。

それでは、ここで清元市長に、先ほど閉会いたしました高校生議会について、ご講評をいただきたいと思っております。

市長、よろしくお願ひいたします。

---

## 市長講評

### ○清元秀泰市長（登壇）

高校生議員の皆さん、お疲れ様でした。

また、傍聴いただきました皆様もありがとうございます。

市長の講評として、まず全体的なことですが、本日は高校生の立場、そして高校生らしい視点から、本市におけるさまざまな課題について、ご質問やご提案をいただきました。

学生として、勉学等に励む中、今回の質問事項の検討に加え、先日も市立3校の合同生徒会で市立高等学校生徒会サミットを開催したとお聞きしており、まずは、その頑張りに、市政を推進する立場として感謝と敬意を表したいと思います。

また、グループで討議された質問の内容は、本来の姫路市議会の本会議さながらの鋭いものがあつたと感心いたしております。

個別に見ても、交通マナーの周知、地域創生における若者の参加支援事業の創設、高校生が参加できるSDGs実現のための取り組みなどは、高校生の立場から普段の生活を送る中で体験したことや感じたこと、また、エネルギー問題を踏まえての発電スポットの設置や障害者の立場に立った5年制の市立特別支援学級の設立は、社会的な課題を斬新な発想でそれぞれの質問や提案としてまとめられた内容であつたと思います。

健康増進法が施行され、そして東京オリンピックを控えている今、禁煙・分煙化の推進やまた文化の発信を姫路城だけではなく、文化コンベンションセンターをさらに活用することで、もっともっと元気にしていこうという、今まさに市議会とともに議論していることなど、答弁させていただきましたとおり、この課題についても喫緊の課題でありまして、どれをとっても皆様のご提言や質問はすばらしい内容であつたと思います。

今回の高校生議会に参加された皆さんは、姫路市、そして地域のために、また社会のために何ができるか、皆さんでそれぞれいろいろと考えられ、そして感じられたことと思います。

これらの経験は、将来にとって、皆さんに非常に貴重な経験となりますし、今後、就職や進学など、さま

ざまな場面でこの経験をぜひ生かしていただければと願っております。

私たちも、きょういただいた提案を、可能なものは実現に向けて努力したいと思います。

高校生の皆さんも、引き続き行政や市議会の動きに興味を持っていただき、姫路市政に強い関心を持ち続けていただきますようお願い申し上げます。

何より、今世界は激動の中にいます。きょうはイギリスが平和の象徴と思っていたEUから離脱するブレグジットがありました。これからは、人口減少するという、今までも経験したことがない、そんな時代に我々は今生きて、生かされていると思ってください。

民主主義は、我が国の政治の根幹であり、皆様の日々の暮らしの中でも、もっともっと身近に感じていかなくはなりません。

歴史の中でマグナカルタということを知ったことはあると思いますが、おそらく私が知る限り、マグナカルタは絶対王政の中、初めて自分たちの権利や生きる方向性を主体的に個々が示した初めてのものだと思います。

民主主義は、天から与えられたものではなく、自分たちが、先人たちが勝ち取ってきたすばらしいシステムです。

この中で、我々姫路市政を運営する者たちは、多くの市民の血税を使い、未来に向けたまちづくりを行っています。

きょう参加していただいた高校生の皆さんは、その税金がどのように使われ、我々市議会を運営する、そして市政を運営する理事会の理事の者々がどんな形で民主主義を推し進めているかを体感していただきたい経験になったと思います。

そんな中で、私は子どものころから、少数意見にもしっかりと耳を傾け、そして皆の合意をもって進めていくことが民主主義だと信じてこれまで生きてきました。

市政を担当する中において、確かに多くの意見を聞かなくてはなりませんが、100人いたら100人の意見を聞いていたら、前へ進めないのも民主主義の1つの側面です。

最終的には、議論を尽くした中で、多数決という方



式が民主主義の中では多くとられています。

私はこれまでの人生の中で、自分の意見が通らないこともたくさん経験してきました。そんなときに、なぜ自分のことがわかってくれないんだろうか、そんなことで腹を立てたこともあります。

君たち高校生の時代の自分は、とてもひとりよがりでもわがままだったと思います。そんな中で、あるとき、いろいろな経験の中で、多数決で負けたときこそ、自分が反省してどこが受け入れられなかったんだろうか、そんなことを考えるようになり、少しでも多くの人に自分の考えをわかってもらいたい、そんな気持ちで仕事についてきました。

これは、政治家、議員、市長、そういう選挙のことだけを言っているのではなく、会社の運営やクラス会の運営や自治会の運営でも、必ず意見の対立はありますが、しっかりとした意見を言って、相手の意見も聞いて、最後には多数決をとるかもしれません。

自分が賛同を得られなかったときには、どこがよくなかったのかを考えて、どうしたら次の会のときに皆さんに自分の考えを修正して聞いてもらえるか、きっと、きょう皆さんは質問する中で、多くの人に賛同を得てもらおうと思って、悩み、考え、文章をつくったと思います。このことは、とても多くの人の胸に響くものでした。

皆さんの提案をしっかりと受け止めて、本当の議会でも一人一人の命を大切に、この姫路に住んでよかったなと思えるような市政を、市議会議員の先生方や市政をつかさどる理事側ともしっかりと検討して、進めていきます。

きょうはそういう意味で、皆さんのおかげで、私たちの民主主義の原点を考える意味でも、とても勉強になりました。

土曜日のこんな日に出てきてくれて、ありがとうございます。

最後になりましたが、このすばらしい高校生議会の開催にご理解とご支援をいただきました各学校の先生や関係者の皆様、また、開催に尽力されました阿山議長を初め、市議会議員の皆様にお礼を申し上げ、私の講評とさせていただきます。

本当にきょう1日、ありがとうございました。

---

#### ○安積司調査課長

市長、ありがとうございました。

最後に、姫路市議会、梅木副議長よりごあいさつを申し上げます。

よろしくお願いします。

---

#### 梅木副議長あいさつ

#### ○梅木百樹副議長（登壇）

副議長の梅木でございます。

高校生議員の皆さん、本当にお疲れさまでございました。かなり緊張されたと思いますが、皆さん堂々と、姫路市の将来や課題などについて、鋭い視点で質問されており、感心をいたしました。我々もしっかりと見習いたいとこのように思います。日ごろとは、答弁しておりましたけど、議会の各常任委員会の委員長が答弁しましたけど、日ごろと違った形で答弁してしますので、かなり緊張しながらの答弁も聞こえました。

本日、姫路市の未来を担っていただく皆さんが、市政について考え、先ほど市長もおっしゃいましたけど、本当に民主主義の根幹である議会を体験していただいたことは、我々や高校生議員の皆さんだけでなく、姫路市にとっても有意義な機会であったと思います。

皆さんは、本日の経験を通じて市政や議会活動に対する関心を深めていただき、ふるさと姫路のまちづくりに積極的に参加いただければ幸いに思います。そして、数年後には皆さんの中から、市会議員目指したい、職員になって姫路市を変えたい、あるいは市長になりたい、このような思いを持つ、本当にふるさと姫路に対する思いをしっかりと抱いて今後の活動に生かしていただきたいと思います。そして、心から皆さんの中からそういうふう積極的に市政にかかわっていただける方々が輩出されることを心から期待をしております。

最後になりましたが、姫路市高校生議会の開催に当たり、ご尽力いただいた先生方、あるいは市長を初め理事者の皆さん方、本当にありがとうございました。深く感謝を申し上げますとともに、高校生議員の皆さんそれぞれが、輝かしい未来を送られますことを祈念いたしまして、閉会の挨拶にします。

ありがとうございました。

姫路市高校生議会の会議録に署名します。

姫路市高校生議会議長 飾磨高等学校 \_\_\_\_\_

会議録署名議員 姫路高等学校 \_\_\_\_\_

〃 姫路西高等学校 \_\_\_\_\_

〃 兵庫県播磨高等学校 \_\_\_\_\_

「姫路市高校生議会」会議録

発行年月 令和2年（2020年）3月

編集・発行 姫路市議会事務局